国　語

小学校第４学年　国語　冊子１2（１）　冊子２2（１）　冊子３2

○ 調　査　問　題

2

次の文の主語・述語を――線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。

（1）

ぼくは[1]　夏休みに[2]　北海道へ[3]　行く[4]。

主語

述語

○ 調査問題の趣旨・内容

「文の構成を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】　文節に分けた４つの言葉から主語・述語にあたるものを選択する。

【作成の趣旨】　この問題は、文を構成する上で基本的な要素となる主語、述語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。この問題では、主語と修飾語を、文中の意味や役割を考えながら適切に選別する力が求められる。

こうした力は今後、小学校高学年から中学校での国語の学習の中で、「読むこと」の学習において文脈を的確に読み取る力や、「書くこと」及び「話すこと・聞くこと」の学習において伝えたいことを明確に書き表したり伝え合ったりする力など、全ての領域の国語力向上へと結びついていくことになる。

○ 誤　答　分　析

解答類型 ／ 出題のねらい	正答①	2 主語のみ正答	3 述語のみ正答	無解答	その他
主語・述語を選択することができる	40.4%	24.8%	13.3%	1.9%	19.6%

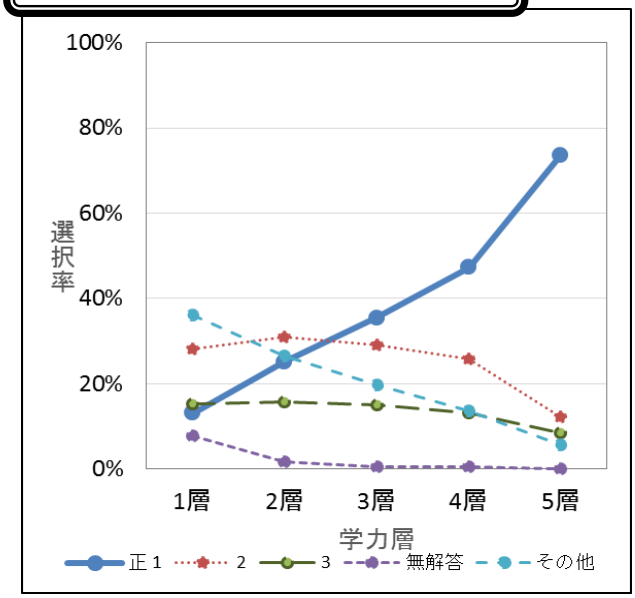
○　主語（傍線１「ぼくは」）・述語（傍線４「行く」）をともに正しく選び出せば正答である。

○　主語のみ正答している解答（2）、述語のみ正答している解答（3）はそれぞれもう一方に、修飾語に当たる傍線３「北海道へ」を選んでいる誤答が多い。また、約２割の児童が主語と述語を反対に解答している（4）。

○　主語、述語、修飾語という用語の意味上の理解や、それぞれの文法上の役割について、十分な理解に至っていないことが読み取れる。

○　第５学年で出題された類似問題（修飾語の働きについての理解を見る問題）、及び中学校第１学年で出題された文中の主語を書き抜く問題においても、同様に正答率の低さが見られた。指導にあたっては、前年度までの既習事項及び次年度以降への繋がりを的確に把握し、系統性を意識した取組が求められる。

○ G － P 分 析



○　全体の正答率は 40%程度と決して高いとは言えない結果となった。特に正答のグラフからは、３～４層に該当する中位の児童の中にも定着の曖昧な児童が半数以上存在することが読み取れる。これらの点から、主語と述語及び修飾語の役割について、学習指導にさらなる工夫改善を図り、学習集団全体への着実な理解と定着を目指すことが求められる。

○　類型２（主語のみ正答）のグラフに着目すると、５層の誤答率が、１～４層のそれに比べて大きく減少している。一方、類型３（述語のみ正答）のグラフに注目してみると、誤答が１～５層にほぼ同率の割合で存在している。このことから、全体的な傾向として、児童が修飾語と述語との区別に比べ、主語と修飾語の区別に、より難解さを感じていることがわかる。

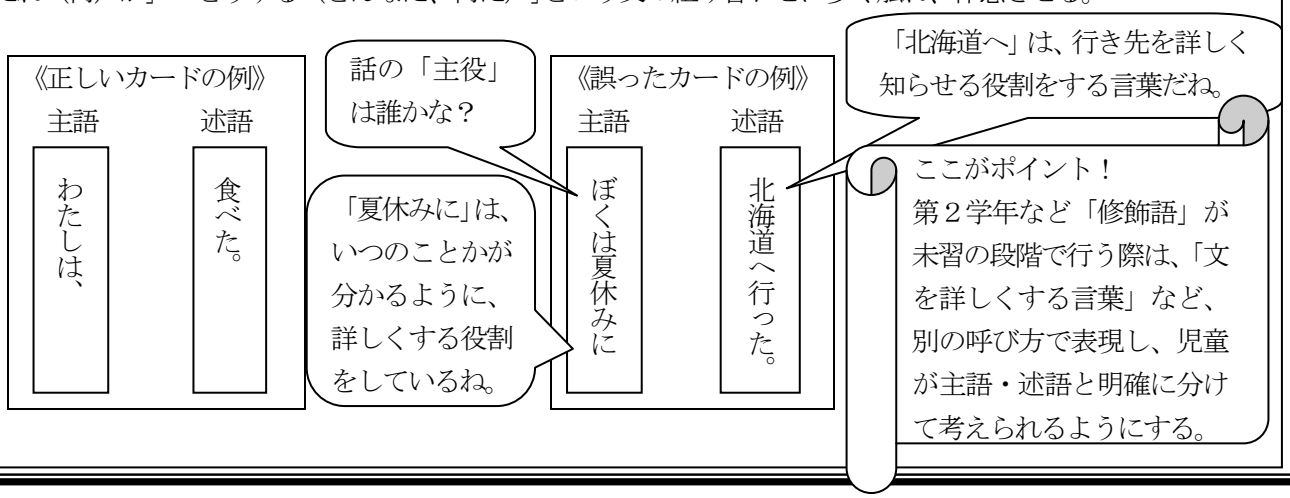
○ 指導上の改善ポイント

○　児童は、第１学年の「だれが・どうする」の学習に始まり、第２学年までに主語、述語の概念を学習する。しかし、このような文法事項は総じて、直接的な指導時数の少ない領域であり、単元の学習のみでは充分な定着が難しいこともある。一方、文章の構成要素として常に存在することから、全ての単元の中で折に触れ意図的、継続的に指導が可能な内容ともいえる。つまり、文章を読む活動の中で主述に注目させる発問を意図的に組む、文章を書く活動の中で文を推敲する視点として主述のつながりを意識させるなど多様な指導が可能となるということである。

○　日常の学校生活の中で、「先生、えんぴつ（が落ちていました）。」など、主述の伴わない会話が成立してしまうことが多くある。さらに広く目を向けると、「で、～」などの表現で文を区切らずだらだらとつないで話したり書いたりする様子や、助詞のない会話、呼応のおかしな会話などが社会で一般化しつつある。正しい日本語表現の使い手を育成する高い意識を、教師が日ごろからもつよう心がけ、意味の理解できる会話であっても丁寧な修正を促しながら、正しい使い方を児童に習慣付けていくことが大切である。

主語と述語のつながりを実践的に理解させる指導　**○「主語カード」「述語カード」を作成し用いる活動例**

①２色のカード大の用紙を用意する。
　片方には主語（だれが、何が）、もう片方には述語（どうする、どんなだ、何だ）にあてはまる言葉を、それぞれ考えて児童に書かせる。その際、修飾語との混同が見られる児童については声を掛け、修正を促す。
②カードを集めてシャッフルした後、順に１枚ずつ引いて、「主語→述語」の順に読み上げ、組み合わせを楽しむ。
③「だれ（何）が」→「どうする（どんなだ、何だ）」という文の組み合わせに多く触れ、体感させる。



小学校第４学年　国語　冊子１13　冊子２14(3)　冊子３14(3)

○ 調　査　問　題

注

※関連する問題
平成２５年度全国学力・学習状況調査
小学校国語B3三

13

あやかさんは、調べたものをまとめて発表する学習に取り組んでいます。次のグラフは、あやかさんがクラスでとった**【アンケートのけっか】**です。このグラフを見て、あとの問いに答えましょう。

(3) あなたがすきなきゅう食のメニューはなんですか。あなたのすきなメニューと、そのメニューがすきな理由を、次の**〈注意〉**をよく読んで、書きましょう。

〈注意〉
1 二段落で、**三行以上、五行以内**で書くこと。
2 一段落目には、**あなたがすきなきゅう食のメニュー**を書くこと。あやかさんの調べた**〈すきなきゅう食のメニュー〉**の中にないメニューを書いてもかまいません。
3 二段落目には、あなたがそのメニューをすきな**理由**を書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「目的に応じて理由や事例を挙げて書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】　話題について自分の考えとその理由を二段落構成で書く。

【作成の趣旨】　この問題は、自分の考えなど、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力がついているかをみる問題である。

一段落目には話題についての自分の考え、二段落目に自分の考えの理由を書くという２段落構成で記述できるかがポイントとなる。

○ 誤　答　分　析

解答類型 / 出題のねらい	①正答	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 理由の記載不足	無解答	その他
目的に応じて理由を挙げながら自分の考えを明確に書く。	**29.6%**	20.9%	1.5%	0.9%	37.0%	10.1%

○　正答率は29.6%、無解答率は37.0%と、無解答率が正答率を上回る結果であった。

○　誤答の傾向として次のような傾向がみられる。

（誤答２）二段落構成という条件を満たしていないもの。

（誤答４）一段落目に好きな給食のメニューを書き、二段落目に好きな理由を書くという条件を満たしていないもの。

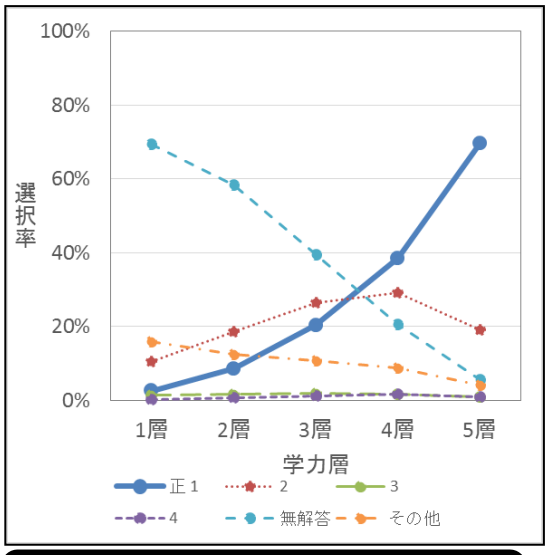
【例】（一段落目）わたしは、とりのからあげが好きです。

（二段落目）なぜなら、とりのからあげがとても好きだからです。

（誤答３）・３行以上、５行以内という条件を満たしていないもの。

・好きな給食のメニューと好きな理由の段落が逆に書かれているもの。

○ G － P 分 析



○　下位層から中位層については無解答率が正答率を上回っている。

○　１層から３層では、無解答でない児童の約半数が２段落構成で書くという条件を満たしていない。また、４～５層にも２段落構成で書くという条件を満たしていない児童が、一定程度見られる。

　これは、学習時に段落を意識して文章を書くという指導が十分でなかったことが原因であると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

1　目的に応じて理由や事例を挙げて書く力を身に付けるためのポイント

　低学年では、「始め―中―終わり」などの構成を意識しながら、経験したことを報告する文章や身近な事物を簡単に説明する文章を書くという活動を通して、「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を学習してきている。中学年では、自分の考えが明確になるように文章を構成するために、「具体的な事柄と抽象的な事柄」「結論とその理由や根拠」など、段落の役割や段落相互の関係を意識しながら文章を書くことで、自分の考えを明確に伝える文章を書く力を伸ばしていく。

　そこで、「B書くこと」の指導事項「ウ　書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」と「C読むこと」の指導事項「イ　目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を関連付けて指導することにより、自分の考えを明確に伝える文章を書く力の一層効果的な育成を図る。

指導事例　「○○について調べ報告する文章を書く」

①　導入
- 学習の見通しをもつ。
- 関連する説明的な文章の教材文をもとに、「○○についての報告文を書く」という学習課題を設定する。
- 関連図書の紹介

②　展開
- 関連する説明的な文章の教材文を読む。
- 並行読書をしながら、自分の興味のある情報を集める。

③　発展
- 疑問に思って調べたことについて報告する文章を書く。
- 本や図鑑などを読んで集めてきた書くための材料を整理する。
- 集めてきた情報をもとに、報告文の構成を考える。

☆自分の伝えたいことが明確に伝わるように、理由や事例を挙げながら報告文を書く。

ここがポイント！

《教材文を読むポイント》
- 教材文の内容で興味をもったこと、さらに調べてみたいことは何か。
  →課題を明確にし、学習意欲を高める。
- 筆者の考えを明確にするために、理由や根拠、事例などをどのように書いているか。
  →筆者の考えと用いられている事例とを関係付けて読むことで、自分の報告文に取り入れたい工夫を見つけられるように読む。

- 展開部での学習内容をふまえて、報告文の構成、記述、推敲、交流に関する指導をする。

- 自分の伝えたいことを明確に記述している、理由や事例が効果的であるかという観点から文章を推敲する。
- 推敲前後の文章を比較させ、整った文章になることを実感させる。

2　国語の授業に限らず「書く活動」を多くの場面に取り入れる。

小学校第５学年　国語　冊子１4

○ 調　査　問　題

4　次の文の――線部がくわしくしている言葉を、あとの1～4の中から一つ選びましょう。

わたしは　校庭で　サッカーの　シュートを　練習した。

1　わたしは　　2　サッカーの

3　シュートを　　4　練習した

※関連する問題
平成２５年度
全国学力・学習状況調査
中学校国語Ａ8六

注目

○ 調査問題の趣旨・内容

修飾と被修飾の関係を正しく理解する力が身に付いているかどうかをみる問題。

【問題内容】　５つの言葉の中から被修飾語を選択する。

【作成の趣旨】　修飾と被修飾の関係を正しく理解する力が身に付いているかどうかをみる問題である。この問題は、問題文は、修飾語と被修飾語が離れて配置されており、修飾・被修飾の関係を正しく理解していないとわかりにくい。

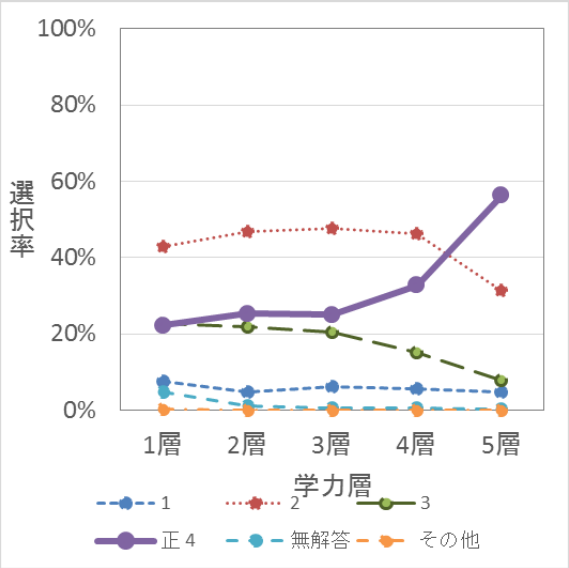
○ 誤　答　分　析

出題のねらい	1	2	3	④正答	無解答	その他
修飾と被修飾の関係を理解する	5.6%	42.8%	17.2%	32.8%	1.4%	0.1%

正答率は32.8%であり、誤答は選択肢２が42.8%、選択肢３が17.2%、選択肢１が5.6%のような割合で分かれている。無回答率は1.4%で他の問題と比較しても低い。正答率が低く、修飾語、被修飾語の理解に課題があると考えられる。特に、誤答の中で選択肢２（修飾語「校庭で」直後の「サッカーの」を選んでいるもの）が42.8%と多いことから、修飾・被修飾の関係性を理解せずに直後のものを選んだり、「サッカーの」を自分で動詞化して選んだりしていることが考えられる。そのため、修飾語の働きを理解した上で、修飾語と被修飾語との関係に注目させる必要がある。

授業では、小単元で扱うだけでなく、定期的に問題に取り組んだり、物語を読む際に、修飾語や被修飾語を探させたりするなど、繰り返しの指導が求められる。今後の指導の中で「修飾語」「被修飾語」という言葉も意図的に使いながら、読むことの他にも、書くこと、話すことの指導の際に活用を図っていくことが大切である。

○ G ー P 分 析



○　１～３層までの児童は、各選択肢に対する選択率がほとんど同じであり、中位層以下では、この問題への理解の状況に大きな違いがないことがうかがわれる。

○　４層の児童は、選択肢３（シュートを）と正答選択肢の違いについて理解しているものの、依然として、選択肢２を選ぶ傾向がある。

○　全体として、修飾語、被修飾語が上位の一部の児童以外、多くの児童に理解されていないことを表しており、日頃の学習の中で修飾語、被修飾語を意識して使用する機会がないことが原因であると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

修飾語の働きについて理解させる指導

【中学年】「文をくわしくしましょう」

主語と述語からなる文に、修飾語を加えて文をくわしくすることで、修飾語の働きに気づかせる。

わたしは　おじいちゃんに　手紙を　書きました
【主語】　（だれに）　（なにを）　【述語】

花が　咲いた
【主語】　【述語】

「白い」「たくさんの」などをいれると花の様子が思いうかぶね。

「いっせいに」「ひっそりと」で咲き方が変わるね。

○文をくわしくすることに加えてどの言葉をくわしくしているかにも注目させる。

修飾語・被修飾語の関係を定着させるための指導

文節で切った文を示し、まず、主語と述語を確認し、修飾語、被修飾語に注目させ、働きを確認する。

例　まぶしい　太陽が　空から　照りつけていた。

①主語と述語だけの文にする。

太陽が　照りつけていた

②被修飾語をくわしくしている言葉を探させる。

「どんな太陽ですか？」→　まぶしい

③修飾語がくわしくしている言葉を探させる。

「空からはどの言葉をくわしくしていますか？」→照りつけていた

○短い文から取り組ませ、徐々に修飾語と被修飾語が離れた文や修飾語が２つ以上ある文などにも取り組ませる。

○定着を図るために、宿題や朝自習等でも５問程度の問題に取り組ませる。

補充

文の中で修飾語・被修飾語を探す指導

物語などを読むときにくわしくする言葉を確認し、知識の定着を図る。

「下線部の言葉（修飾語）がくわしくしている言葉（被修飾語）はどれでしょう。」

お父さんは、ぼくが机の上に置いた、古くてよごれた本を指さしました。

「【　】の言葉（被修飾語）をくわしくしている言葉（修飾語）を見つけましょう」

お父さんは、ぼくが机の上に置いた、古くてよごれた本を指さしました。【本を】

○修飾語と被修飾語の意味のつながりや低学年で学習した主語、述語の関係と修飾語、被修飾語の関係を区別して理解することに注意させる。

○修飾と被修飾の関係を正しく理解する力を身に付けることで、今後中学校での文の成分の学習や連文節の学習へと結びついていく。

ここがポイント！
学習活動の中で、「修飾語」「被修飾語」という言葉を意識的に使っていく。

小学校第５学年　国語　冊子１14（３）　冊子２12（３）　冊子３13（３）

※関連する問題
平成２６年度全国学力・学習状況調査
小学校国語B 1 三

注目

○ 調　査　問　題

14　次の【話し合いの一部】は、「クラスの仲をもっとよくしよう」というテーマで、クラスで話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの一部】

司会　：今日は「クラスの仲をもっとよくしよう」というテーマで、来週の金曜日の休み時間に行う学級レクリエーションについて話し合います。何か意見がありますか。

高橋さん　：ぼくは、全員でサッカーがいいと思います。

中村さん　：わたしは、男子はキックベース、女子はバスケットボールがいいと思います。

山田さん　：わたしは、みんなでドッジボールができるといいと思います。

坂木さん　：ぼくは、男子がおにごっこ、女子はなわとびにすればいいと思います。

司会　：今、四人から出された遊びについての意見は、みんなで遊ぶという意見と男女別で遊ぶという意見に分かれると思いますので、まず、全員で遊ぶことにするか、男女別で遊ぶかを決めたいと思います。

小島さん　：わたしは、［　　］。

高橋さん　：ぼくも小島さんの意見に賛成で、クラスのみんなで遊んだほうがいいと思います。だから、サッカーかドッジボールがいいです。

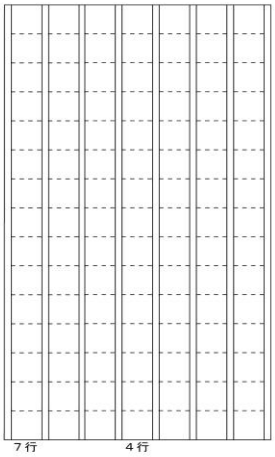
坂木さん　：全員で遊べるのならば、キックベースでも、バスケットボールでも、おにごっこやなわとびでも、いいと思います。

司会　：では、遊びについては、どんな遊びでも全員で遊ぶということに決めたいと思います。次に、どの遊びがよいか発表してください。

(3)　このクラスの話し合いのテーマと話し合いの様子から、あなたならどんな遊びがいいと思いますか。次の〈注意〉をよく読んで、書きましょう。

〈注意〉
１　二段落で、四行以上、七行以内で書くこと。
２　一段落目には、あなたがいいと思う遊びを一つ書くこと。
３　二段落目には、なぜその遊びがいいと思うのか、理由を書くこと。理由は、「クラスの仲をもっとよくしよう」という話し合いのテーマと話し合いの様子から考えて書くこと。

※　解答は、必ず解答用紙に書きましょう。左の原稿用紙は使っても使わなくてもかまいません。



○ 調査問題の趣旨・内容

「理由や事例を挙げて書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問 題 内 容】　話し合いのテーマと話し合いの様子から、理由を明確にしながら二段落構成で、自分の考えを書く。

【作成の趣旨】　この問題は、目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書く力が身に付いているか、をみる問題である。
一段落目にはテーマに沿った自分の考え、二段落目には自分の考えの理由という構成で記述できるかがポイントとなる。
また、テーマに沿った話し合いの様子も加味しながら、理由を適切に記述できるかもポイントとなる。

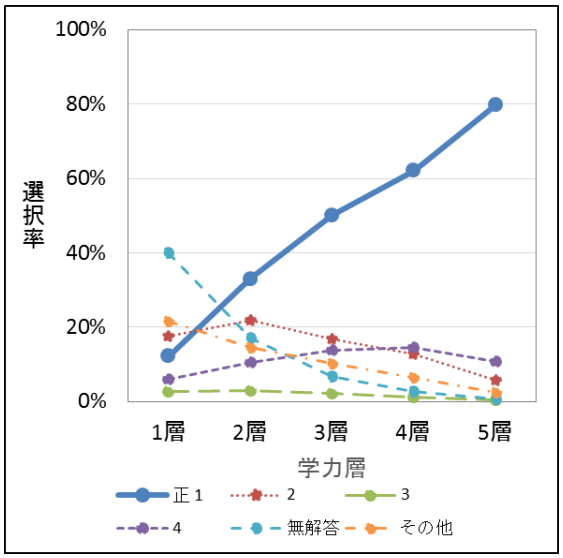
○ 誤　答　分　析

解答類型 ＼ 出題のねらい	①正答	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 理由の記載不足	無解答	その他
理由や事例を挙げて書くことができる	49.1%	14.6%	1.8%	11.2%	12.7%	10.6%

○　誤答の傾向として次のような傾向がみられる。
（類型２）二段落構成で書けていない。
（類型４）「理由」が適切に書けていない。（いいと思う遊びの「いい」理由が書かれていない、等）
＜誤答例＞（一段落目）わたしはなわとびがいいと思います。
（二段落目）なぜなら、ドッヂボールなどは当たったら痛いし、みんなが楽しめないと思うからです。
（類型３）５行以上、７行以内という条件を１つでも満たしていない。

○　無解答率は12.7%と、小学校４年生に比べれば減少しているものの、決して低い水準ではないと考えられる。教科を問わず、書く場面を多様につくっていくことが効果的である。

○ G ー P 分 析



○　１層の無解答率は約 40%と高い水準になっているが、３層以上では少なくなっている。

○　誤答について、１～３層では二段落構成で書く条件を満たさない児童が多い。一方、５層になると、段落構成の条件はほとんどの児童が満たしているが、理由を書く条件を満たしていない児童は一定割合いる。

○ 指導上の改善ポイント

理由や事例を挙げて書く指導

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、理由や事例を挙げて述べることは大変効果的である。中学年での既習事項にも、「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」がある。

児童が理由や事例を挙げて書く力を高めるには、まず、相手意識や目的意識が高まるような状況を設定することが重要となる。さらに、理由や事例を挙げて述べるための表現形式を理解し、使いこなせるように慣れることも重要なこととなる。書き終えたら読み返し、低学年の指導事項である「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」に気を付けているか、確認する習慣を付けさせたい。

上記のポイントに加え、国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れることが、児童の書く力をさらに高めることにつながる。

ここがポイント！

＜指導事例＞

「説明に納得？」自分の考えを伝えよう

①説明文の題名となっている内容について、友達と話し合い、自分なりの考えをもつ。

○　どのようなときに、「大きな力」が出る？
「大きな力を出す」時に大切なことは？　等の題名から考えたテーマを設定し、体験とつなげながら話し合う。

○　考えの選択肢も準備しておき、全員が自分なりの考えがもてるよう配慮する。

②説明文の内容を読み、説明されている内容や説明の仕方、筆者の考え方をとらえる。

○　二段落で構成し、理由や事例を挙げながら書く形式に慣れるようにする。理由の場合「なぜかというと～」、「～のためである」等、事例の場合「例えば～」「～などがあたる」等の表現を使用できるよう指導する。

③導入での考えと比べながら、筆者の説明について、納得できるか、自分なりの考えを書く。

○　「私は、筆者の説明に納得できます（納得できません）。に続けて、理由や事例を挙げながら書く。

④考えた内容を読み合い、友達と交流する。

筆者の説明に納得できます。
なぜかというと、運動会でつなひきに取り組んだ時、やっぱり呼吸しながら、力が出せたからです。

筆者の説明に納得できません。
例えば、友達と呼吸を意識した場合としない場合で実験しても、タイムが変わらなかったかったことがありました。

小学校第６学年　国語　冊子１7(1)　冊子２10(1)　冊子３10

○ 調　査　問　題

7　次の文の□に入る言葉を、あとの１～４の中からそれぞれ一つ選びましょう。

（1）田中君の野球の上達ぶりには目を□。

１　とめる　　２　まわす

３　ひく　　４　みはる

注目

※関連する問題
平成２５年度全国学力・学習状況調査
中学校国語Ａ8三エ

○ 調査問題の趣旨・内容

慣用句の意味を理解しているかどうかをみる問題

【問題内容】　文中にあてはまる適切な慣用句を選択する。

【作成の趣旨】　この問題は慣用句の意味を理解しているかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、慣用句を平易な表現に直した上であてはめ、文章として成立するかどうかを考えることである。慣用句そのものの理解や、慣用句の正しい意味の理解が求められる。

慣用句の意味や使い方を問うことにより、慣用句への興味をもたせ、知識を広げていきたい。またそれを日常生活に生かしていく態度を養っていきたいというねらいで、この問題を作成した。

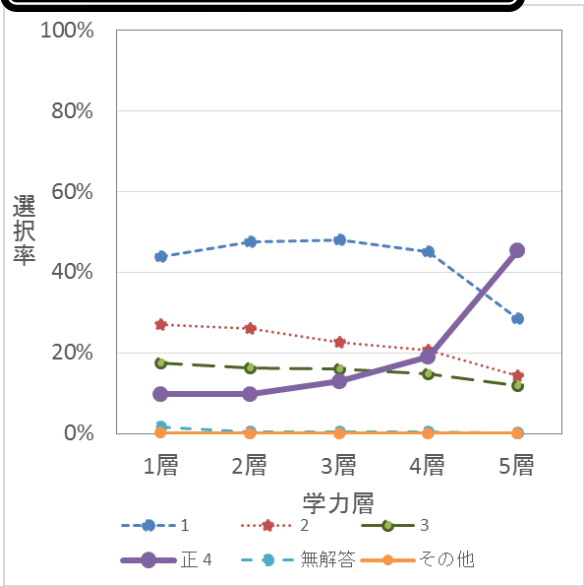
○ 誤　答　分　析

出題のねらい	1	2	3	④正答	無解答	その他
慣用句の意味を理解することができる	42.3%	21.9%	15.1%	20.1%	0.6%	0.0%

正答率は20.1%であり、誤答は、「目をとめる」（選択肢１）が最も多く、それ以外はほぼ同じである。「目をとめる」の意味は、（注目する、興味をもつ）であり、正答に近いことがその要因と考えられる。「目をまわす」（選択肢２）を選んだ児童は、その意味を（驚く）と勘違いしていることが予想される。また、「目をひく」（選択肢３）を選んだ児童は、その意味を（目立っている）と勘違いしていることが予想できる。

いずれにしても、慣用句の正しい意味を理解していないことが課題である。慣用句は日常生活においてなじみが少ないため、日頃から意識して使用させる指導が大切である。

○ G ー P 分 析



○　1～3層の児童は、それぞれの選択率にあまり差がない。
○　しかし、5層の児童は、正答の選択率が急に上がり、選択肢1（目をとめる）と選択率が逆転している。
○　これらから、正答につながる知識を有しているのが、能力の高い受検者に偏っていることが分かる。

○ 指導上の改善ポイント

慣用句は、小学校中学年の指導事項である。中学年の教科書では慣用句のみを取り出して、1つの単元として学べるようになっているが、それ以降の教科書で、慣用句に関する単元が登場することは少ない。日常生活において、慣用句が使われることも少なく、指導の機会が少ないのが現状である。学習指導要領を見ると、中学校第3学年の指導事項で、「慣用句」の文言が再び登場し、慣用句に関する知識を広げることが明記されている。6年間のつながりを考えると、初めて学習する小学校中学年が慣用句に関する指導の入り口で、その後、継続的、発展的な指導が求められる。

指導では、慣用句の意味を理解させるだけでなく、実際の言語生活で使えるようにさせることが大切である。そのため、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことの全ての領域で、意識的に慣用句に関する指導を行う必要がある。

スピーチによる慣用句の指導

一人一人のスピーチに、必ず1つ、慣用句を入れることを指示する。児童は、スピーチ原稿を作成するために、慣用句を調べ、自分が表現したいことを表す慣用句を探そうとする。もしくは慣用句から、自分の経験を振り返ろうとする児童もいるだろう。慣用句とその意味、自分の経験を結びつける活動によって、慣用句の意味の定着、興味・関心の広がりを促すことができる。

さらに、お互いのスピーチを聞き合うことで、慣用句の意味を知ったり、正しい使い方を確かめたりすることができ、慣用句の使い方についても学ばせることができる。

もちろんこれらは、スピーチに関わらず、慣用句を使った作文でも同様に指導ができる。

文章中の慣用句に着目させる指導

文章中に意味が分からない語句が出てくれば、すぐに辞書を引かせる習慣を児童につけたい。そのためには手元に常に辞書がある等の環境が必要である。辞書を引くことにより、語彙が増えてくる。これは慣用句にももちろんいえることである。

教材研究で、教材に慣用句を見つけたら、意識的にそれを取り上げ、意味を予想させた後、辞書で引かせる。意味を確認した後、それを用いた短文を作る等の継続的な指導で、知識の定着、広がりを促すことができる。

ここがポイント！
①話すこと・聞くこと、読むこと、書くことのすべての領域で指導をする。
②日常的、継続的な指導をする。
③意味を理解させるだけでなく、実際の言語活動で使えるようにする。

※関連する問題
平成２６年度全国学力・学習状況調査
小学校国語Ｂ２三

注目

小学校第６学年　国語　冊子１12 (3)　冊子２13 (3)　冊子３14 (3)

○ 調　査　問　題

12　田中さんのクラスでは、学級図書の利用について、話し合いをしています。次は、その【話し合いの一部】と話し合いのために学年全員にとった【アンケート結果】です。それらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの一部】

司会：　今日は、学級図書をよりよく利用してもらうための方法について話し合いたいと思います。何か意見はありますか。

田中：　今のように本がばらばらに置いてあると、本の名前をさがすのが大変で、読みたい気持ちになりません。

小山：　興味がある本をすぐに見つけられるように、整理した方がいいと思います。

司会：　どちらも、本をさがすのが大変だという意見ですね。では、どのように整理するかについて、意見のある人はいますか。

福田：　わたしは「五十音順」にならべれば、読みたい本の題名がすぐに見つかると思います。

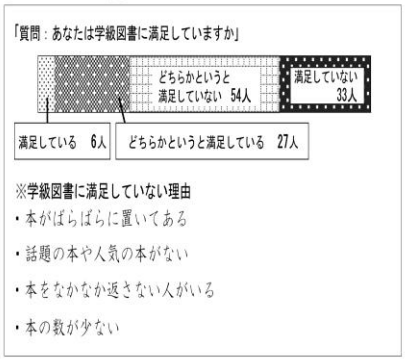
中村：　わたしは、図かん、物語、科学読み物などの種類ごとに分けて整理すればいいと思います。

森本：　ア［　　］。

司会：　森本さんは、福田さんと中村さんの意見を合わせて、発言してくれたのですね。他にありますか。

〜話し合いは続く〜

【アンケート結果】



(3)　【アンケート結果】には、「本がばらばらに置いてある」以外にも、学級図書に満足していない理由が書かれています。あなたが解決したい問題を、解答用紙の〈学級図書に満足していない理由〉から一つ選びましょう。そして、次の「学級図書の問題を解決するためのヒント」をまとめた〈田中さんのノート〉を読んで、問題を解決する方法をあとの条件1から条件3にしたがって書きましょう。

〈田中さんのノート〉

「学級図書の問題を解決するためのヒント」

①　本の学級貸し出し（市立図書館）

申しこみをすると、学級単位で、図書館の本を、一ヶ月間に五十さつまで貸し出してくれる。

②　読みたい本アンケート（市立図書館）

利用者に毎月アンケートをとって、どんな本を読みたいか調べている。

③　貸し出しノート（学校の図書室）

貸し出しのときには、借りた人の名前と借りた日、返す日を必ず記入するという手続きを行っている。

条件1　二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。

条件2　一段落目には、どの問題を解決したいのか、〈学級図書に満足していない理由〉から選んで書くこと。

条件3　二段落目には、条件2で選んだ〈学級図書に満足していない理由〉を解決する方法を、〈田中さんのノート〉の「学級図書の問題を解決するためのヒント」の①〜③のどれか一つを参考にして書くこと。その際、選んだヒントの中の言葉を使って書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「資料を参考に、問題を解決する方法を考えて二段落構成で書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】　〈田中さんのノート〉を参考に、学級図書の問題を解決する方法を考えて書く

【作成の趣旨】　この問題は、事実と意見を区別して書く力をみる問題である。この問題のポイントは、解決したい〈学級図書に満足していない理由〉を三つの中から選び、その解決策を「学級図書の問題を解決するためのヒント」の中から一つを参考にして書くことである。文章を書く際に、二つの資料から選択するという条件があるために、資料と自分の考えとを照らし合わせながら書きまとめる力が求められる。

○ 誤　答　分　析

解答類型 ＼ 出題のねらい	正答①	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 ヒントを参考にしていない	5 改善方法を書いていない	無解答	その他
事実と意見を区別して書くことができる	40.2%	4.8%	2.0%	3.8%	8.8%	7.3%	33.2%

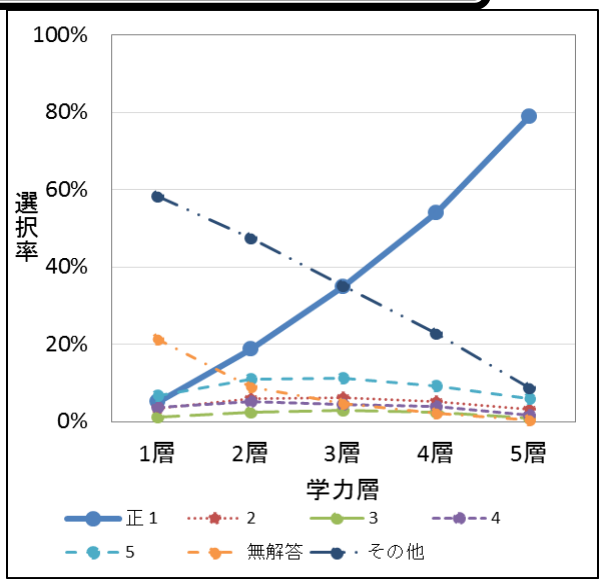
○　誤答で最も多かったのは、問題の設定を理解していないもので（類型その他）、次に改善方法を書いていないもの（類型５）が多かった。

・「（一段落）わたしは人気の本がないことを選びました。（二段落）なぜなら、学校の図書館には人気の本がないので、アンケートをとって、人気の本を学校の図書館におけばよい。」→「学校の図書館」の改善について書いている。問題の設定を理解していない例

・「（一段落）わたしは本をなかなか返さない人がいるという問題を解決したいです。（二段落）なぜなら、返さない人がいるとその本を借りたい人が読めなくなり、困ると思うからです。」→「満足していない点」に困る点を書いているが、「改善する方法」の記述がない例

○　書く活動に具体的な読み手を設定し、効果的な資料や図表・グラフを選択し、引用する活動を取り入れたい。

○ G ー P 分 析



○　問題設定を理解していないなど、解答類型その他の児童が相当数の割合を占めている。

○　類型２~４（段落構成、行数、ヒントを参考にする）の解答条件を満たしていない児童は全体的に少ない。ただし、類型その他と判断された児童が相当数いることから、多くの児童が段落構成等の条件を理解できていると即断することは避けたい。

○ 指導上の改善ポイント

事実と意見を区別して書く力を高めるポイント（５年生の意見文を書く活動を通して）

１　書く過程の「課題設定段階」において具体的な読み手を設定する。

・学級の枠を越えた具体的な読み手の設定
・その読み手がテーマについてどのように考えているかについて事前にアンケート調査をする。
・アンケートをもとに読み手を分析し、読み手に応じた取材活動を絞り込む。

中学年での「話題選定段階」における、アンケートやインタビュー調査の経験を生かす。

⇨

○　具体的な読み手は、地域や家庭との連携を図りながら設定することが必要となるが、時間や連絡調整を踏まえて、校内の隣の学級や、１学年下の学年など、無理なく設定するとよい。

○　何を書くのか（取材するのか）という「課題設定段階」で、アンケート調査をもとにした具体的な読み手を分析する時間を設定することで、限られた時間に効果的な取材活動につなげることができる。

２　読み手に自分の意見を伝えるのに効果的な資料や図表・グラフを選択し、引用する。

・文章を引用する場合
　→　引用する部分を「　」でくくる。
・図表を用いる場合
　→　本文に「図１は、～」といった表現を用いる。

⇨

○　どのような引用をするのがよいのか、図表やグラフのいずれを用いるのがよいのかなどを考える習慣を付けることが重要である。

実際に読み手からの感想をもらうことで、「書いてよかった。」「また書いてみたい。」という、書くことへの達成感を味わわせたい。

３　国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れる。

○　算数や社会科、理科の授業において言語活動の充実を図る。
・算数　→　問題に対する見通しや考え方を文章でまとめる活動、自分の誤答についての分析を文章でまとめる活動
・社会　→　グラフや多くの資料をもとに、課題を見つけて自分の考えを書きまとめる活動
・理科　→　実験や観察において、仮説や実験結果を自分の言葉でまとめる活動